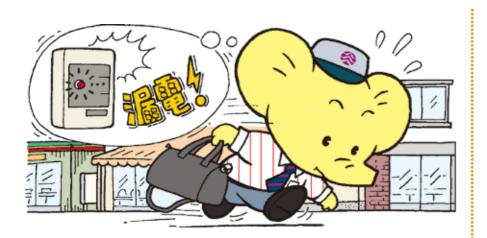
理場の記録から



茨城事業本部 土浦事業所 電気保安3課 岡崎 正行

雨天の時だけに起きる謎の漏電



9月から10月は一年で最も台 風が襲来する季節です。また、 秋の長雨などによって、一年あ 最も降水量が多い季節縁監視 ます。当協会では、絶縁電監視 一ビスを提供しても屋外時間の 監視サービスで「「一人」というケースを が遭遇した「雨天」がは、漏電する が遭遇した「雨天」というケースを が遭遇した「雨天」というケースを が遭遇した「雨天」という が遭遇した。 ます。

今回のお客さまは、緑に囲まれた工業団地にあり、屋根の上を利用した太陽光発電など、脱炭素関連にも積極的に取り組んでいる企業で、環境管理が行き届いた自然に優しいパン製造工

場です。多くの方に新鮮なパンを届けるため、小麦粉の精製からパンの練り工程を経て、石窯で焼き上げるパンのおいしさが特徴です。また、その後の包装、梱包から配送まで24時間体制で稼働する大型工場です。

その日は、絶縁監視装置から の警報により、お客さまの工場 へ調査にお伺いしました。

お客さまへの問診を行った後、 調査を開始しました。絶縁監視 装置の示す漏れ電流値は、39mA ですでに漏電表示は復帰をして いました。

ただ、この工場では、

- ①以前に同じ電灯回路で1700 mAの漏電があり、原因不明の状態で復帰してしまった回路があったこと
- ②月次点検では通常漏れ電流 は2~3mA程度であること
- ③警報発生時の天候は雨であったこと

――の3点を思い出し、39mAの 漏れ電流を詳細に調査すること にしました。

該当回路の分電盤は、工場内 の屋内にあります。ただ、この





工場での漏電は、雨天時に発生 することから、屋外に設置して ある設備を中心に調査すること にしました。

すると、屋外に5台並ぶプレハ ブ倉庫の中央にさしかかったと ころでリストアラーム(電気が 来ている所に近づけるとアラー ム音が鳴る安全用具)が鳴動し はじめました。 そこで、この中央部にあるプレハブ倉庫本体の電圧をテスターで測定したところ100Vと表示されていました。

そうしたことから、お客さまに事情をお話して、プレハブの 倉庫内の配線を詳しく調べてみると、100V照明の配線が倉庫の 本体にくい込み、そのケーブルの被覆が劣化し、充電部が露出 していたことで漏電していたことを発見しました。

その場で応急処置として手直 しを実施し、異常が無いことを 確認しました。

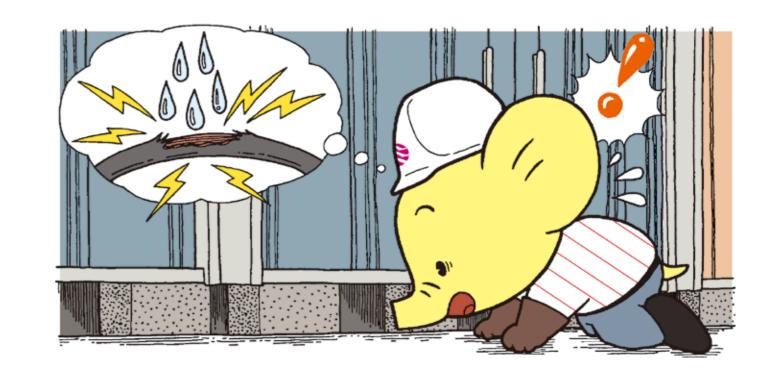
改めてお客さまへこの付近で 感電された方がいないかを確認 して頂いたところ、「感電された 方はいなかった」とのことにほ っとしました。

原因としては、プレハブ倉庫 の基礎はブロックで少し浮かせ てあったため、雨で漏れた時だ けケーブル劣化箇所に雨水が触 れ、漏電警報を発生させていた のです。

これから本格的 な台風シーズンに 入ります。強風や 大雨によって、屋 外にある電気設



備が風雨によって漏電して危険 な状態になってしまうことがあ りますのでご注意ください。



電気と保安 2023年 9・10月号